

川田谷古墳群と栗原司氏の足跡

桶川市の西部にあたる川田谷には、かつて数多くの古墳が築かれていました。

近代にいたり、川田谷の古墳は、農地の拡大の中で失われ、さらに戦後の開発の中で文化財として保護されることもなく消えていきました。

桶川在住の栗原司氏は、古代の文化に高い見識をもっておられた教育者でした。川田谷古墳群の現状を知った栗原氏は、独力で川田谷古墳群の調査を行い、その記録を今日に伝えておられます。

今回の展示では、桶川市歴史民俗資料館が所蔵する川田谷古墳群の発掘調査資料とともに、平成29年に故人となられた栗原司氏の業績を紹介します。

展示期間 令和4年3月19日（土）から4月17日（日）



ひさご塚古墳の緊急発掘調査 昭和42年



栗原司氏の調査記録より

川田谷古墳群

川田谷古墳群は、6世紀から7世紀にかけて築かれ、かつては70基以上の古墳があったとされる北足立地方では最大級の古墳群です。

江戸時代の地誌である『新編武蔵風土記稿』の記述にも古墳の存在を示す記事が見られ、明治28年に地元住民によって発見された埴輪が学会に報告されています。

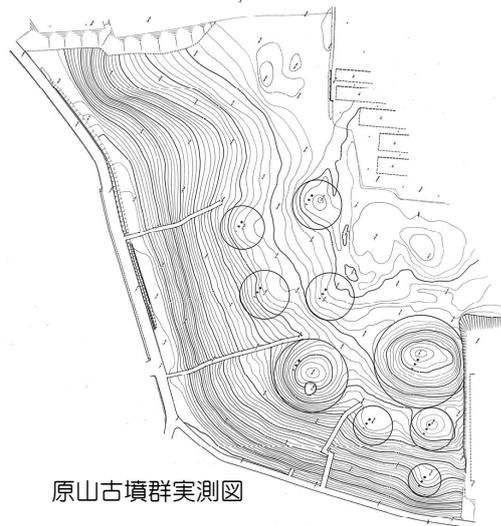
これらの古墳の多くは消滅し、現在、目にすることができる古墳は原山古墳群などわずかとなっています。

原山古墳群（桶川市指定文化財 史跡）

川田谷古墳群の北部にあたる原山古墳群には、雑木林の中に9基の古墳が現存し、古墳が群集する6世紀後半から7世紀の古墳の姿を今に伝えています。

古墳の範囲確認を目的とする調査によって、いずれの古墳も墳丘の中に横穴式石室があることを確認しています。

6世紀半ばを過ぎると、小型の古墳が盛んに築かれるようになり、多くの人びとが国作りに参加していく姿を物語っています。



原山古墳群実測図



城髪山2号墳 横穴式石室

解説 横穴式石室と副葬品

古墳時代後期の古墳には、横穴式石室が作られます。石室は入り口をもち、羨道（せんどう）と呼ばれる通路の先にある玄室（墓室）に死者を葬ります。

玄室には、死者の持ち物であった武器や装身具が副葬され、葬送の際に使われた土器である須恵器（すえき）も発見されます。



須恵器 平瓶
西台2号墳出土

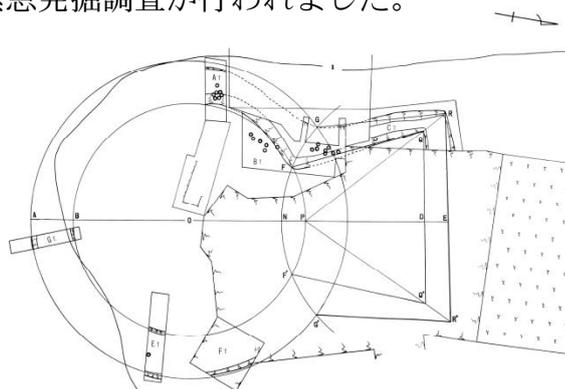
■ ひさご塚古墳

川田谷古墳群の柏原支群にあるひさご塚古墳は、墳丘の長さが41mに達する前方後円墳です。昭和42年に土取工事のために墳丘が削られたことから、緊急発掘調査が行われました。

発掘調査によって、長さ5mの横穴式石室が現れ、副葬品として直刀や鉄鏃といった武器とともに、轡（くつわ）や鐙（あぶみ）、さらには金を施した辻金具などの馬具が発見されました。

また、墳丘を守る多くの円筒埴輪とともに、男女一対の人物埴輪が出土しています。

川田谷古墳群の首長たる人物の古墳と考えられ、その年代は採集された須恵器から6世紀後半とされています。



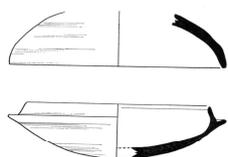
墳丘平面図



鉄鏃（やじり）



馬具残欠・轡



墳丘から採集された須恵器 蓋坏



馬具残欠・辻金具



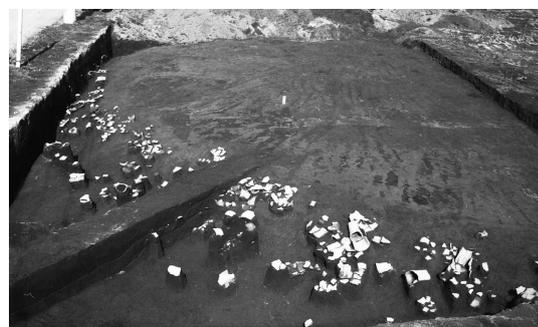
人物埴輪の出土状況

■ 若宮Ⅱ遺跡

平成4年の発掘調査によって墳丘をすでに失っていた古墳の跡が発見されました。川田谷地区では、荒川からの客土による耕作土によって遺跡が守られています。

失われた墳丘の裾に立て並べられていた円筒埴輪が、周囲の溝に落ち込んだ状態で発見されました。

ここには、かつて柏原4号墳という大きな古墳があったと伝えられています。



古墳をめぐる溝にそって並ぶ円筒埴輪

■ 城髪山2号墳

川田谷古墳群柏原支群にあった城髪山（しらがやま）2号墳は、川田谷古墳群の終末にあたる7世紀初頭に築かれたと考えられます。この頃には、埴輪が古墳に配置されることはなくなり、古墳の規模も小さくなっています。昭和44年の発掘調査では、念入りに造られた全長4.20mの横穴式石室が発見されました。

石室内の副葬品は、短刀や鉄鏃などの武具の他、作りの良い金銅製耳飾りと22点の玉類が発見されました。水晶製切子玉（きりこだま）、金銅製空玉（うつろだま）は、終末期の古墳を特徴づけるものです。

とくに、空玉は、近畿地方の終末期古墳（6世紀末～7世紀）から発見されますが、埼玉県内では、埼玉古墳群の將軍山古墳から出土した銀製の例があるのみです。



水晶製切子玉と玉類



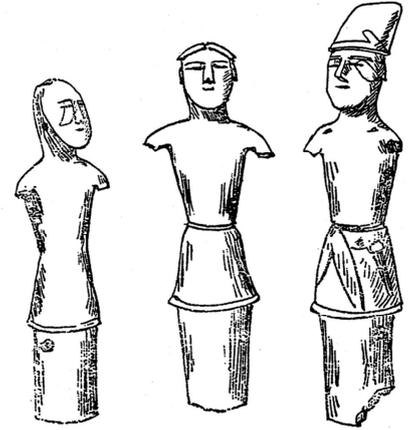
金銅製耳飾り



金銅製空玉

川田谷古墳群の埴輪

川田谷古墳群から発見された埴輪研究の歴史は古く、明治29年に、地元の住谷文五郎氏が字若宮の古墳から発掘した埴輪を、八木奘三郎氏が『東京人類学雑誌』に紹介しています。これらは、日本の考古学研究が始まった明治時代に古代人の服飾や生活を知る資料として注目されていました。これらの人物埴輪は、現在も、東京国立博物館に所蔵されています。



『東京人類学雑誌』に紹介された川田谷出土の埴輪

近代以降の農業開発、さらに昭和40年代以降の都市開発の影響を受けて、川田谷の古墳は失われていきました。展示資料は、昭和42年のひさご塚古墳の緊急発掘調査と栗原司氏による採集資料、平成4年の若宮Ⅱ遺跡の発掘調査によるものです。

解説 円筒埴輪について

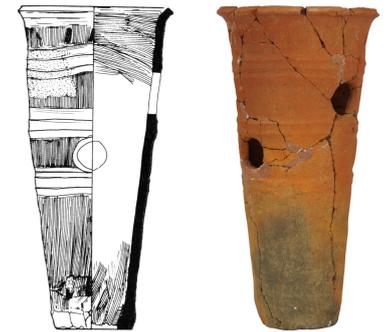
円筒埴輪は、古墳の周囲に立て並べ、死者が葬られている場と現実の世界を隔てるものともいわれています。その起源は3世紀の古墳発生期にさかのぼり、6世紀まで用いられました。

円筒埴輪は、筒状の体部に数条の突帯が巡り、突帯の間に穴をあけ、内外面には刷毛目が施されています。

さらに、高い階層の古墳では突帯の本数が多いとされ、3条突帯の円筒埴輪を主とするひさご塚古墳は、川田谷古墳群を代表する首長の墓であったと考えられます。若宮Ⅱ遺跡とひさご塚古墳から出土した埴輪は、ともに退化した低い突帯の形から、6世紀後半以降のものと判断されます。



若宮Ⅱ遺跡出土 円筒埴輪



ひさご塚古墳出土 円筒埴輪

解説 形象埴輪について

形象埴輪は、4世紀から家や器財（武器など）、動物を表現するものが作られ、5世紀の中ごろの近畿地方の古墳に人物埴輪が設置されるようになります。

その後、5世紀末から6世紀中ごろの関東の古墳では、さまざまな姿の人物埴輪が用いられました。これらは葬送や王の継承の祭を表わしているとする説もあります。

また、鴻巣市の生出塚（おいねづか）遺跡では、埼玉古墳群をはじめとする関東の数多くの古墳に埴輪を供給した工房が営まれていました。

川田谷古墳群の人物埴輪は、ひさご塚古墳がある若宮地内から発見されたものです。栗原司氏採集の4体の人物埴輪に馬形埴輪を加えた資料は、この地の埴輪の構成をよく伝えていきます。



ひさご塚古墳出土人物埴輪（男・女）



栗原司氏採集埴輪

馬形埴輪

頭巾をかぶる男（馬丁）

髻を結った女（巫女）

冠帽をかぶる男

男子（胸部）

川田谷古墳群研究の先覚者 栗原 司 氏の業績

栗原司氏は、昭和2年に桶川町に生まれ、旧制浦和中学校を経て、國學院大學で古代文学を学びました。卒業後、教職のかたわら、川田谷古墳群における全古墳の踏査を行って、研究記録を作成されました。

さらに、昭和40年代に入り、急激な都市開発で遺跡が危機を迎える中でひさご塚古墳の調査に協力され、ご自身も貴重な埴輪をはじめとする考古学資料を採集し、ご自宅に保存してくださいました。

桶川市歴史民俗資料館では、調査を経て、栗原氏の収集した資料と研究記録を後世に伝えるために、平成27年に寄託を受けました。

栗原司氏と考古学

國學院大學では、武田祐吉博士、高崎正秀博士の薫陶を受け、国文学を専攻されました。その一方で、考古学への思いを持ち続けておられました。

「私が考古学という学問に興味を持つようになったのは、中学時代に大場磐雄先生の『神道考古学論攷』を小遣銭はたいて購入し、何度も繰返し読んだのがはじまりである。」
「古代を学ぶ者がこの学問に迂遠であって本当に学べる筈がないのである。」

教職に就かれてから、偶然に地元の川田谷古墳群の存在を知ることになり、後半生をとおして、川田谷古墳群の調査と研究に取り組みされました。

解説 栗原 司 氏の調査と著作『川田谷古墳群の現状』について

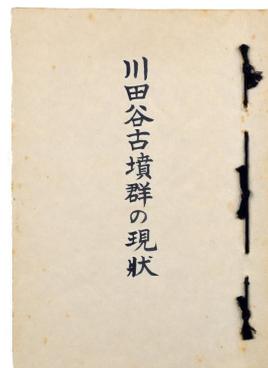
栗原氏による川田谷古墳群の調査は、大学卒業後に川田谷村の島村道太郎氏から、古墳群の存在を知ったことに始まります。

調査にあたっては、島村氏を始めとする地元の方々から徹底した聞き取り調査を行い、詳細な調査原簿と図を作成しています。その成果もとに、昭和35年に『川田谷古墳群の現状 本文篇・図録篇』を著しました。

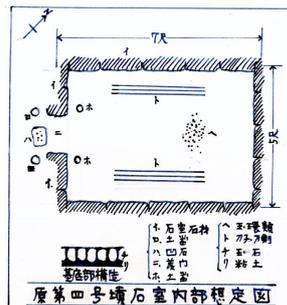
栗原氏は、『川田谷古墳群の現状』の中で、川田谷古墳群とともに生きた地元の人々のことを、次のように記しておられます。

彼等古老はこの土地の、この古墳の、直接の開墾者なのだ。彼等はよりよく生きんとして耕地の拡張を企図し実行した。自ら墳丘上の樹木を伐りはらい、株根を掘り起し、封土を平して畑を作った。(中略)

この彼等が生きんがために開墾した時の記憶である。私はこのような理由から彼等の記憶を信頼して可なるものとするのである。



「川田谷古墳群の現状」



「川田谷古墳群 調査原簿」より

解説 栗原コレクションについて

桶川市歴史民俗資料館が収蔵した栗原司氏のコレクションは総数3000点を超え、考古学資料を主とし、典籍に至るまで幅広い内容をもっています。栗原氏の古代文化に対する研究の意欲に裏付けられた資料群となっています。

資料の整理は行き届き、「出土品」として分類された資料は「埴輪・土器・石器」等と細分類され、収集の経緯や場所を明確にし、写真を付した台帳が作成されています。今回の企画展示における川田谷古墳群の人物埴輪もこうした栗原氏の研究姿勢のもとで保管されていたものです。



出品協力者：浅井由里 様

企画助言者：橋本富夫 氏 山崎 武 氏

文責：桶川市歴史民俗資料館 館長 粒良紀夫